

ひがしいず 議会だより

7 月号
No.296



裏表紙に説明

新しい議長・副議長に聞く	2
委員会の紹介、議会の体制	3,4
定例会で審議・議決された議案	5
一般質問(10人)	6~10
100条委員会からの報告	11
新人議員はこんな人です	12

5月20日の臨時会において常任委員会の委員に選出されました。これから2年間よろしくお願いいたします。

総務経済常任委員会



委員長	山田	直志
副委員長	西塚	孝男
委員	藤井	廣明
委員	内山	慎一
委員	鈴木	勉
委員	須佐	衛

議会と町当局の在り方をどう考えるか

このところ、町を見ていると議会と町当局の距離が離れすぎているように感じる。

従来は町当局も議会に相談しながら施策を進めてきたが、結果だけが示されるようになってきた。

町政上の様々な情報を共有しながら、それぞれの立場で切磋琢磨していくような関係を確立していきたい。

議会改革をどう行うか

二元代表制で、町民の声を代弁していく役割を果たすのが議会です。町民のみなさんの声を聴きそれを生かせるような議会にすべきで、そうした改革を議員みなさんと目指していきたい。



議長 村木 脩

趣味は旅。休日は家のまわりの草刈り等普段できないことを行っている。
座右の銘は「平常心」

新議長・新副議長に聞きました

文教厚生常任委員会

委員長	稲葉	義仁
副委員長	栗原	京子
委員	村木	脩
委員	笠井	政明
委員	楠山	節雄
委員	定居	利子



議会と町当局の在り方をどう考えるか

議会と町当局は車の両輪と言われるが、またエンジンとブレーキとも言える。

町当局は大きな執行権を持つ。これを監視し、法令順守の上、町民のために安全に走らせるのが議会の役割と思う。

議会改革をどう行うか

議会が何をしているのか分からないという町民の声を受け止め、広く声を聴くチャンスをつくり、分かりやすい議会広報を発信していく。

また時代の流れであるペーパーレス化の方向を目指す。何でも紙の印刷物でやり取りする時代から、紙に頼らずパソコン等で情報のやり取りができる議会にしていこう。



副議長 藤井 廣明

趣味は読書とお城巡り。好きな曲「明日に架ける橋」
休日は畑仕事やミカン畑の手伝いなどを行い過ごす。
座右の銘は「徳孤ならずして必ず隣有り」

6月11日から2日間の日程で、改選後初めての議会定例会が開催されました。一般質問では10人が登壇して、町政の課題について質問しました。主な内容は次ページ以降に掲載しました。
議会に提出された議案は審議の結果、すべて可決されました。議案の主な内容は次の通りです。

国民健康保険税条例の一部改正の内容

- 介護納付金分所得割を「2.1%」から「1.9%」に引き下げる
- 介護給付金分平等割を廃止
- 介護給付金均等割「1万」を「1万4千円」に引き上げる
- 保険税軽減世帯判定所得を見直す
- 来年4月より保険税限度額「58万円」を「61万円」に引き上げる

- 介護保険条例の一部改正
- 放課後児童健全育成事業の設置及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
- 損害賠償請求事件の示談について
物件保障を92万3458円で示談
- 財産の取得について
国際基準のアナログ無線装置2台（同報系）の購入
- 同報無線子局更新工事請負契約
15子局の鋼管柱、スピーカーを交換



一部整備される高性能スピーカー

一般会計補正予算（第2号）

主な事業を紹介します

- プレミアム付商品券事業は、2832万2千円で国から2670万2千円の補助で行われます。
購入対象者
①今年度住民税非課税者
②2016年4月2日～2019年9月30日生まれまでの子どものいる世帯
商品券の内容は 2万円で2万5千円分の商品券が購入できる。5千円がプレミアム分
○事業は、商工会に委託されます。
○商品券の購入先や使用できるお店は、今後募集されて明らかになります
- 子供子育て支援制度補助金762万7千円 国補助金
- 交流・定住促進事業 910万円
○若者定住促進住宅取得補助金490万円 ○移住就業支援事業費補助金420万円
- 消防団員退職報償金426万円
- ふるさと納税寄付事業で寄付者謝礼に1499万6千円

- 国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 介護保険特別会計補正予算（第1号）
- 固定資産評価審査会委員の選任
太田正一さんを再任しました
- 教育委員会委員の任命
黒田清隆さんを任命しました
- 人権擁護委員の推薦
外岡恵美子さんを再任しました

お知らせ

議会では、ハイキャットのご理解とご協力を得て、議会の一般質問の動画をYOUTUBEに掲載します。町のHP からリンク出来ますので是非ご覧ください。

その他委員会等

◎委員長 ○副委員長 ☆委員

議 員 名	楠山節雄	笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山愼一	藤井廣明	鈴木勉	定居利子	山田直志
組 織 名												
総務経済常任委員会					○	☆		☆	☆	☆		◎
文教厚生常任委員会	☆	☆	◎	○			☆				☆	
議会運営委員会	☆	☆	☆					◎				○
議会広報編集委員会		○	☆		☆		☆		◎			☆
監査委員※						☆						
稲取財産区管理会					☆			☆		☆		
東河環境センター議会								☆		☆	☆	
伊豆斎場組合議会		☆							☆			
下田メディカルセンター議会			☆	☆								
駿東伊豆消防組合議会					☆							☆
交通安全対策委員会	☆									☆		
東伊豆町社会福祉協議会			☆									
東伊豆町青少年問題協議会							☆					
東伊豆町防災会議							☆					
東伊豆町国民健康保険運営協議会	☆		☆						☆		☆	
東伊豆町地域農政推進協議会							☆					
東伊豆町都市計画審議会		☆						☆				
伊豆横断道路建設促進期成同盟会							☆					☆
伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会							☆					
河津下田道路及びアクセス道路建設期成同盟会							☆					
伊豆縦貫自動車道「天城峠道路」及びアクセス道路網建設促進期成同盟会							☆					
消防賞じゅつ金審査委員会				☆						☆		
社会教育委員会	☆					☆						
奨学選考委員会			☆									
東伊豆町立学校給食センター運営委員会				☆				☆				
東伊豆町町民安全連絡会議							☆					
東伊豆町国民保護協議会							☆					
健康づくり推進協議会			☆									
市民農園運営協議会	☆											☆
稲取漁港周辺整備推進協議会		☆									☆	
東伊豆町空家等対策協議会					☆							
東伊豆町水道料金等審議会				☆								☆

※監査委員は、町の事務を質疑・審査できる立場であることから、以下のような慣例がある。
・常任委員会以外の委員に所属しないこと。 ・一般質問をなるべく控えること。



Q がん患者と家族の支援体制は

A 賀茂圏域での体制構築に努めたい

Q がんに関する相談窓口は。
A 静岡がんセンターの相談窓口などを紹介している。
Q がんが診断された時から、療養の質を向上させる早期の緩和ケアの現状は。
A また、小児がんなどでウィッグが必要な子ども達に自分の長い髪を寄附するヘアドネーションの周知も併せてお願いしたい。
Q がん患者の在宅医療チームの体制が整備



がんに関する電話相談
"一人で悩まないで"

Q 地域包括ケアの賀茂圏域での体制整備に向け努力する。
A がん治療による脱毛や皮膚・爪など外見の変化をサポートするアピアランスケアの普及啓発の取組みは。
A 病院で情報提供がなされていると思われる。
Q がんを闘う女性に、医療用ウィッグや胸部補正具などの費用の助成は。
A 県及び近隣市町の動向をみて検討する。
Q 公的な施設にオストメイト対応設備の設置は。
A 要望があれば検討したい。

そのほかの質問

Q 終活支援の取組みは
A 要望があれば検討する



Q 観光業及び商業への重点施策は

A 観光関連の基盤整備と個店の指導をする

Q 地域認定商品を空き店舗対策で継続販売はできるか。また、ふるさと納税の商品として積極的に活用し、売上の増進を。
A 空き店舗での継続



地域認定商品のキンメ

Q 長期的な観光関連の基盤整備をするというが、四国の道後温泉など繁盛している観光地には、公衆浴場が整備されている。銭湯の建設の考えは。
A 入湯税の値上げの要望と併せて環境整備の案が来ている。地元の要望に沿って検討したい。

そのほかの質問

Q 買い物等のコミュニティバスの運行は
A 調査結果により、最適な方策・時期を決定する
Q 町営風車の民間企業への継承は
A 地元の同意がなく、議会が反対なら行わない



Q 統合後の旧大川小学校の活用は

A 大川区の意向を最優先にする

Q 利活用の考えは。
A 広域避難場所としても検討しているが、地元の考えを最優先に有効活用を検討していく。
Q 仮称「海の生き物館」構想を提言する中で「イズー」の参入協力を求める行動は。
A 企業側と話しいいを持つことはやぶさかではないが地元がどう考えているかを確認し進めていくことになる。



旧大川小学校を
地域経済の拠点に

そのほかの質問

Q 情報格差の解消は
A ハイキャット、IKCの相互乗り入れに努力する
Q 熱川温泉活性化への町の協力は
A まずは地元の熱意や組織で活性化策を推進すべき

Q 入湯税の引き上げ要望書への対応は

A 関係者と協議、検討する

Q 入湯税1000円の引き上げ要望はどこからか。
A 熱川・稲取旅館組合、観光協会から。
Q 入湯税引き上げの使い道は。
A 宿泊客減少対策に使い、魅力ある観光地づくりをする。



こんな魅力がある町です

Q 入湯税は全て一般会計に入れるのか。
A 引き上げられた入湯税分は環境基盤整備基金として管理する。
Q 町は入湯税の制度改正はするのか。
A 関係者や議会と協議・検討し9月までに結論を出す。

そのほかの質問

Q これからの町政運営は
A 議会には報告説明を徹底する





いなば 義仁 議員

Q 公共施設等総合管理計画の進捗は

A 維持管理に関する情報の共有を進めている段階

Q 平成29年3月に策定された計画において、施設の維持管理に関する情報共有、更には維持管理を一元的に管理する組織の構築がうたわれているが現在の進捗は。

A 各課が所管する施設の情報共有を進めている段階である。



公共施設等総合管理計画より

Q 専門的技術を持つ職員の育成は。

A 採用が困難なこともあり、現状は取り組んでいない。

Q 広域での取組も必要では。

A 前向きに取り組んでいきたい。

Q 公共施設の維持管理には将来的な財源不足も予想されている。計画実行に関するスケジュール感は。

A 今後2年間位のうちに専門家を入れ、公共施設の削減を含めた全体的な方向感を示したうえで、施設管理を一元的に行う組織の構築について検討したい。

Q 少子化対策の具体的な施策は

A 子宝祝金、子育て用具購入補助金などを行っている



今年度が最終年度となる

Q 「東伊豆町子ども・子育て支援事業計画」の来年度以降の計画は。

A 今年度までが第1期として計画されており令和2年度から6年度までの第2期計画を今年度児童環境推進委員会で協議を進める。

Q 町長は「子供が増えていく」と以前、答弁したが、その後2年間出生数は横ばいで増えてはいない。具体的にどのような対策を

A 町長は「子供が増えていく」と以前、答弁したが、その後2年間出生数は横ばいで増えてはいない。具体的にどのような対策を

Q 当町には保育所、幼稚園、認可外保育所とあるがこれらの施設の今後はどのように考えているか。

A 今後子供が減っていく中、必要かどうか検討し任期中には回答を出していきたい。

Q 無償化に伴う国の方針がまだ決定していないため現段階では回答できない。

Q 幼児教育無償化に伴う当町の負担額は。

A 子宝祝金、子育て用具購入補助金、若者の定住促進住宅取得補助事業や移住・就業支援などを行なってきた。

Q 自動運転の実証実験へ参加の有無を考えると

A 当町への有効性を確認し参加の有無を考えると



あさき 政明 議員

そのほかの質問

Q 自動運転の実証実験へ参加の有無を考えると

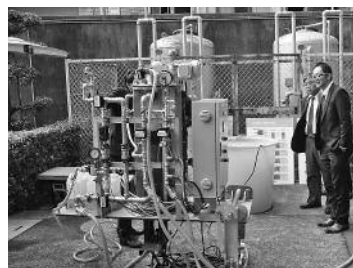
A 当町への有効性を確認し参加の有無を考えると

Q 水道事業ビジョンの内容は

A 現状に見合った処理能力へ

Q 水道料金の今後の見込みは。

A 水道事業経営戦略において、現在の1日平均給水量が10年後には26・7%減少し、料金収入も約3億9千万円から約3億2千万円となり、約7千万円減



全員協議会にて水道浄水システムのデモ

Q 経営戦略とは。

A 老朽化施設をダウンサイジング等により経費削減につとめ、稲取地区においては新規井戸整備により白田浄水場からの動力費など、大幅な経費削減につながるものと期待をしている。

Q また、本年度より、水道料金等審議会を立ち上げて検討していく。

Q 2度の町長の減給処分があったが

A 私の不徳の致すところである



町長の辞職勧告などを報じる新聞各紙

Q 新規イベントの開催や事業内容の見直しを実施した。「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」などを策定し、人口減少対策に真剣に取り組んでいる。財政ひっ迫による

A 新規イベントの開催や事業内容の見直しを実施した。「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」などを策定し、人口減少対策に真剣に取り組んでいる。財政ひっ迫による

Q 住民サービスの低下は問題ではないか。

A 既存事業の拡大・縮小・廃止の必要性を見極めていく。

Q 「健康づくり」教室の人数も1昨年より45人少なく、隔週になった教室もある。マイクロバスの送迎も廃止されたが。

A アスト会館が無くなり分散化した。より良い方法を考える。

Q 町政混乱の再発防止策は。

A 全職員にコンプライアンス研修を実施し、指針マニュアルの配布を予定している。チェック体制の見直しをしていく。



ふじ 井 明 議員

そのほかの質問

Q 駒沢女子大、共立女子大、昭和女子大との協定締結は

A 人材育成など包括的なもの



にしづか 孝男 議員

そのほかの質問

Q 町の出生数が5年間で半分以下になっているなかで、小中学校は地区ごとの統合でよいのか

A 本年度中に「研究のまとめ」をいただく予定

Q 消防団と消防署の連携は無線による連携を検討中である

◆風力発電修繕工事に関する事務調査特別委員会 調査報告（100条委員会）

風力発電単独運転検出装置修繕工事は、風力発電事業特別会計補正予算第2号（平成30年12月11日議決）で議決する前に発注及び修繕工事が行われていたことが明らかになった。



100条委員会とは
地方自治法第100条に基づき、自治体の事務を調査するために設置した特別委員会。関係者の出頭と証言、記録の提出を請求できるなど強い調査権限を持つ

調査において明らかになった事項

1. 補正予算成立前に発注が行われていた。

請負業者と町企画調整課担当によるメールのやり取りにおいて、平成30年9月7日には見積りを把握し、同年9月11日にはメールにて修繕を発注した。業者においても9月11日に「ご注文頂きましてありがとうございます。」と受注を確認している。また、9月19日に工事発注内示書を業者からメールで提示され、町担当者も押印の上、返信している。

その後、業者は受注生産される単独運転検出装置の注文書を9月21日に装置製造業者に発送し、10月2日に装置製造業者より注文請書が送付された。

2. 修繕工事は平成30年11月9日に修繕が完了していた。

業者に平成30年11月9日付の「単独運転検出装置交換作業報告書」が保管されていた。関係者証言や契約時期、発電量記録とも整合しており、11月9日に修繕工事は終わっていたことを確認した。

なお、同報告書は町から本委員会へ提出されなかった。

3. 「風力発電単独運転検出装置修繕工事請書」及び「修繕業務完了検査復命書」の日付の調整が行われていた。

町に保管されている平成30年12月12日付「風力発電単独運転検出装置修繕工事請書」及び平成30年12月25日付「修繕業務完了検査復命書」は、工事日、完了日ともに平成30年12月12日と記入されているが、企画調整課は日付を記入しないものを業者に要請して受け取り、手書きにて日付を書き込み使用されていた。なお、実際の工事は平成30年11月9日に行われており、平成30年12月11日議決後に請負契約、修繕工事、工事完了のつじつま合わせを行っていた。

町に保管されている12月12日の単独運転検出装置交換作業報告書は12月12日に修繕工事が行われたと見せかけるため、業者に依頼し作成させた。また、実際に修繕工事が行われているように偽装するため、業者に必要のない現地作業をさせていた。

上記1～3の一連の行為は前企画調整課長の指示のもと行われた。

4. 町長・副町長において、書類内容の確認を行わず決裁がなされていた。

平成30年12月12日付「風力発電単独運転検出装置修繕工事請書」については見積書が添付されているが、町長・副町長は有効期限が切れているにもかかわらず内容の確認をせず決裁を行っていた。

また、平成31年2月5日に「風力発電施設保険に係る復旧通知書について」の決裁がされているが、保険会社へ送付した添付書類「復旧通知書」には復旧完了日「平成30年11月29日」と記載されており、完了日の相違がみられた書類に決裁処理がなされていた。

議会より当局への改善提案

（1）役場内コンプライアンス（法令順守）の見直し

公務員という立場上、職員一人一人が責任を持ち法令に則り仕事を行うこと。

（2）相互チェックの強化に向けた体制の構築

幹部職員間の情報共有、相互チェック機能強化により、組織として不正を防止する体制を整備すること。

（3）議会への説明の徹底

今回の件は議会への説明を徹底していれば防げた案件である。よって当局は今まで以上に議会への連絡・説明の徹底を行うこと。

（4）公益通報制度の見直し

窓口は総務課長であるが対応するのは町長となっている。これでは公益通報制度は機能しない場合もある。よって顧問弁護士等の窓口が情報の提供を受けることを目的として、内部及び外部からの通報制度の整備を検討すること。

Q 去年の運転免許の自主返納者は

A 高齢ドライバーの自主返納者は43人である



高齢者による危険な事故を伝える記事

Q 高齢ドライバーの割合は。
A 65歳以上の高齢ドライバーは2千913人で、全体に占める割合は37・3%である。
Q 一昨年より返納者が減っているようだが特典・サービスは。
A 返納時に交付され

Q 公共交通会議で検討することになる。
A 病院の送迎バスでは、患者以外の利用者もいるように聞く。また、デイサービスの送迎車両を利用したらどうかという声も聞く。体系的にさまざまな立場の人の意見を聞く姿勢が大切と思うが。
A 検討したい。

Q 自主運行バスへのアクセスを整備することや、移住定住策を進めるうえでコミュニケーション交通の整備は最重課題だが。
A 運転経歴証明書の手数料はみたいが、国の政策に任せるところがある。
Q 無電柱化に対する考えは費用面や東電の協力を考えると難しい



須佐 衛 議員

そのほかの質問

Q 無電柱化に対する考えは費用面や東電の協力を考えると難しい

Q 鳥獣害対策の強化を

A 広域で対応し進める

賀茂地域での鳥獣害対策の状況

駆除等捕獲数	被害対策実施隊
東伊豆町 1119頭	
下田市 1719頭	設置
河津町 2068頭	
南伊豆町 1811頭	設置
松崎町 1481頭	設置
西伊豆町 2284頭	設置

※静岡県賀茂地域の鳥獣捕獲等一覧より

Q 昨年は住宅地域に侵入してきている。追い払いには町にある電動ガンが有効であり、補充整備してゾーンで追い払いが出来るようにすべきだ。
A 電動ガンが有効と言うことを初めて聞いた。検討したい。

Q 鳥獣害の状況は。鹿・猪・猿などによる農産物への被害は、29年度813万円、面積74・2ha。
Q 10年で駆除等は165頭から1千119頭に増加したが、賀茂郡でも実績は最低。報奨金の引き上げや駆除実施隊が必要では。
A 昨年提起したが、報奨金の平準化や駆除実施隊は設置していない。被害対策実施隊の設置は広域で検討している。
Q 猿は住宅地域に侵入してきている。追い払いには町にある電動ガンが有効であり、補充整備してゾーンで追い払いが出来るようにすべきだ。
A 電動ガンが有効と言うことを初めて聞いた。検討したい。



やまだ 直志 議員

そのほかの質問

Q レインボーディスコへの町のサポート、料金は1日15人前後のサポート、約11万円

ポンプ車操法で優勝！

賀茂支部消防操法大会で

6月9日 松崎町で開催された賀茂支部消防操法大会で、第3分団はポンプ車操法の部で見事に優勝の成果を得ました。また、第6分団は小型ポンプ操法の部で惜しくも入賞を逃しました。

こうした消防団の訓練は、町民の安心安全を支えるうえで重要な活動となっております。消防団員は、4月末より日常の勤務の後に集合して、訓練を重ねて大会に臨みました。

この間の会社・家族、関係者のご理解ご支援に感謝するとともに、消防団員のみなさんのこれからのますますのご活躍を期待しております。



新人議員はこんな人です！



議員 楠山節雄

―議員になろうとした動機は。

農水産物直売所の審議をみて、デメリットもあるがメリットも大きいのに、反対がある。改善するために議員を志した。

―取り組みたい課題・政策は何ですか。

観光立町なので、観光振興の提案をしていきたい。また、農家所得の向上につながる提案で、耕作放棄地や後継者問題の解決へ繋げていきたい。情報格差を感じている。これらにも取り組んでいきたい。

―議員としてアピールは。

大きな声 明るい笑顔

で、議会内外の潤滑油になりたい。

―マイブームは。

健康維持を含めて、自宅周辺でランニングをしている。キンメ馬拉ソンにも挑戦した。

自身の楽しみを含めて小・中学生への卓球指導をしています。その成果からかゴルフの飛距離が出ているようにも思う。

表紙の説明

東伊豆ワークセンターの人たちが、カーネーション農家の苗運び出し作業を手伝いました。収穫後の運び出しは暑さもかなり大変な作業です。所員は額に汗しながらも4畝のハウスの作業を約2時間で済ませました。

東伊豆ワークセンター

内田哲正所長の声

縁があり作業をさせていただきました。入所者の可能性と挑戦の日々です。

今後とも地域のみなさんと一緒にできる仕事に取り組んでいきます。皆さんからも声をかけてください。

カーネーション生産農家

山田弘志さんの声

皆さんの仕事が大変驚くとともに大変助かりました。また何かありましたらよろしくお願いします。

広報編集委員会

委員長	藤井廣明
副委員長	笠井政明
委員	稲葉義仁
委員	西塚孝男
委員	村木 脩
委員	山田直志

潮 騒

元号が令和になつて初めての定例議会が開かれました。12人中10人が質問するという活発さ。町議会も生まれ変わる時期です。質問回数は3回までという従来の制限が無くなりました。町長の反問権も認められました。自由闊達な言論の府の第一歩です。今後は時代の趨勢であるペーパーレス化に進みます。とは言っても一番大切なのは町民の声。今後とも各方面の皆さんの声を聴きながら議会運営を進めます。

(藤井)